

サンコウチョウの巣立ち観察記

佐藤英夫・佐藤栄美子

私たちに野鳥が渡りをするということを教えてくれるのは、マイフィールドの公園に春と秋に必ず現れる「サンコウチョウ」(英名: Paradise Flycatcher)です。本を読むとインドシナ半島やスマトラ島から春に還ってくるらしいのですが、あんな遠いところからどのようにして飛んでくるのか……一度その飛んでいる姿を見たいものです。

マイフィールドの「サンコウチョウ」はどこに移動していくのか、見当もつきませんが、渡って来たサンコウチョウの声をよく聞く南多摩の山中で、今年嬉しいことに巣立ちを観察出来ました。

6月17日 いくつか登山したときに声を聞いた場所に行ってみました。ここは小さな川があり、杉林が鬱蒼と続く場所です。観察には少し遅いかなと思ったら、さきに巣をつくったものの、カラスに巣をのぞかれ、その巣は放棄したと他のバーダーからお聞きしました。しかしこの日、巣を放棄したと思われるオスが巣材らしものをくわえて飛んでいるのを見ました。

6月26日 この前オスをみかけた川のそば、高さ10メートルくらいの杉の枝の交差したところに巣を見つけました。小さな巣です。本によると巣の大きさは大体7-8cmのコップ型。杉や檜の樹皮を蜘蛛の糸でつづり、苔を貼り付けて完成。卵の大きさは2cmほど、淡い薔薇色の地に赤褐色の斑点があるそうです。メスが巣に入って抱卵中の様子。その後オスも現れメスと交替して卵をあたためていました。この場所の上流にもうひとつ巣があり、ここはまだ巣を作成中のようでした。

7月6日 下流の巣、雛の顔が見えました！3羽です。雛はまだ目が開いていないようです。

主な餌は昆虫らしいのですが、餌を運んで来る親の嘴先を見ても、何を食べさせているのか解りません。時々巣の中の雛の糞をくわえ出したり、オスもメスも大忙し。そのうちメスが敵に警戒するよう巣の上に覆いかぶさってしまっ、雛達は大丈夫かしらと思って見ていたら雛がメスの羽の間から顔を出しました。

7月13日 下流の巣のところに行ったら親子とも姿がありません！11日に巣立ちらしいのです。しかし上流の巣は、巣が完成していてメスががんばって抱卵中。

7月21日 上流の巣を見に行くと、まさに巣立ちの場面に遭遇！一番目の子が巣立って、周辺の樹に身を潜め、二番目の子は巣のすぐ傍の杉の枝先にジャンプ。じっとしています。三番目の子は巣の縁に出て羽ばたきの練習したり、なかなか動きません。両親が次々に傍に来て巣立ちを促しますが、この子は性格なのかじっとしたまま。どのくらい時間が経ったでしょうか…。四番目の子が巣の中で待ちくたびれたのか、巣の縁に出てきて同じように羽ばたいたりしています。そのうち三番目の子は巣の傍の杉の枝先に、少しずつ上りはじめました。そしてあっという間に三番目と四番目の子は、一番二番目の子と反対側の林に飛びました。そうするうちに二番目の子が川の傍の木に飛び移り、オスが餌をあげた拍子に下に落ちました。川に流されてしまったのかしらと心配していたら、幸い川のすぐ傍の草むらの中にいるらしく、チーチーと親を呼ぶ声。メスが心配そうに飛び交います。このとき時間は17時近く。夕闇が迫って来ています。何とか明るいうちに親が二番目の子を見つけてほしいと思っていたら、二番目の子が川の傍の草の上に飛び移り、メスが給餌に来ました。薄暗くなった森の数箇所に飛んだ他の雛の、親を呼ぶ声が聞こえます。どのようにして両親はまだ十分に飛べない雛を一箇所に集めて、育てていくのでしょうか。でも自然の中で生きていく術を持つ鳥達の力を信じて、この場所を後にしました。来年大きく成長したこの子達がきっとこの森に帰って来てくれる事でしょう！



巣立ちした二番目のヒナ